

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	キラー・ビー	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.500	△RG	0.056	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：キラー・ビー

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：ワイルド・キャット

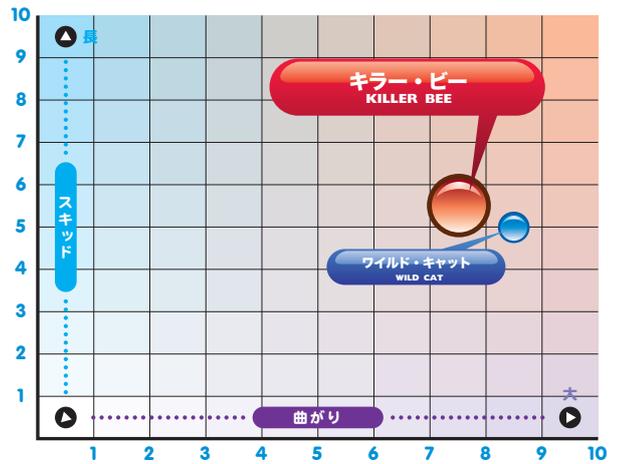
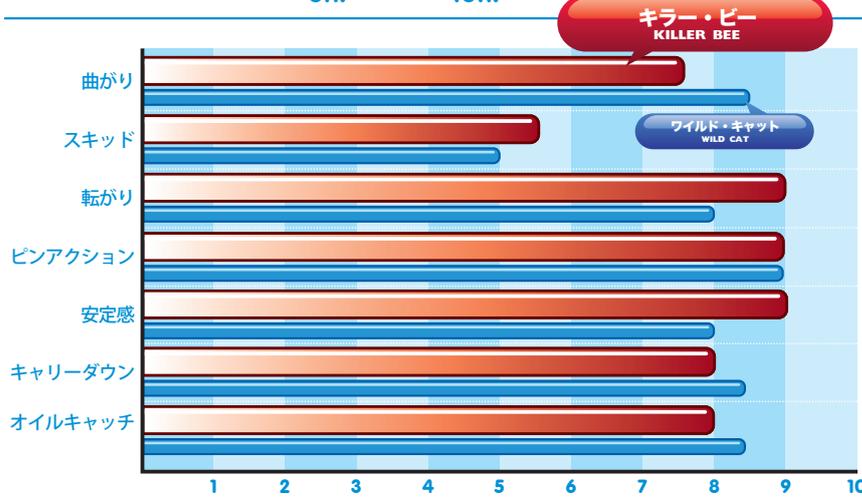
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

ABS50周年と同時に立ち上げられた新ブランドNatural Enemies。独自の研究室の独自なコンセプトのもと、ABSのためだけに存在するこのブランドで発売された第一弾のWILD CATは好評で完売し、追加入荷も致しました。今回発売されるKiller BEEはWILD CATとは一線を介するシリーズで、ミッドエリアでの安定感とContinuous系の分類では1・2を争う運動性能を誇るボールです。

バックエンドでAngularな過激なリアクションを信条とするWILD CAT、ミッドエリアの高い安定感とContinuous系のKiller BEE、双方パフォーマンスが異なる性能ですが、実はこのボールはWILD CATと同時進行で開発が進められていました。Killer BEEのためだけに開発されたカバーストック、Killer BEEのためだけに設計されたコアテクノロジー。WILD CATの時も同様ですが、開発期間やその他をふまえこれだけNatural Enemiesのブランドに力を注いでいるのは、なお開発に力を注いでいく証であり、ユーザーの声を反映させられるブランドであるということ。

比較投球では攻撃的なWILD CATと安定感の高いKiller BEEと分類できるのは前記の通りです。私たちの市場調査ではWILD CATの先での動きが良いイメージと合わせ辛いイメージが出ていました。今回のKiller BEEはWILD CATのカバーよりやや走りを加え、安定感のあるContinuous系で先で柔らかくキレルイメージもあります。メーカーは違いますが、MOTIV社 REVOLTのリアクションはそのままやや走る性能と考えて頂ければわかりやすいと思います。こういう性能だとプロのトーナメントや大会等でも使用できるコンディションの幅も広く、また数多くのポウラーに使用して頂けるでしょう。

テストングして特筆すべき点は”薄めでもピンアクションの良さ”でしょう。角度が足りないと思ってもミキシング性能が高く、高確率で10本のピンまで絡めて倒れることが多くみられました。コントロールしやすくピンアクションまで期待できるボール。これ以上何も必要ありません。

特記事項

ミッドエリアでの高い安定性とContinuous系でピンヒットまで転がり続けます。薄めのアクションが絶品ですので、是非この機会にお試しください。